

# いたやなぎ 町議会だより

平成27年  
6月定例会

**第6号**  
2015. 8. 14

主な内容

- 6人が一般質問 P2~5
- 常任委員会審査 P7
- 研修・視察レポート P8~9

# 町民の声を町政に

## 第14回定例会一般質問

第14回板柳町議会定例会が、6月5日から12日までの日程で開催され、10日に行われた「一般質問」に、6名の議員が登壇しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、質問と答弁が要約してありますので、臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。



葛西 清人

### 基幹産業の安定策は

**問** 成田町長は、町基幹産業をどのような政策で安定経営するつもりか。

**答** (成田町長) 「りんご」は、今までの施策を受け継ぎながら板柳りんごの消費力、販売力のさらなる向上につなげたい。「米」は、国や県の事業などをフル活用しながら収益性の高い転作物の導入や規模拡大など経営基盤強化を促進させたい。

### 米の直接支払い交付金の減額、廃止への考えは

**問** 交付金の減額そして廃止は稲作をしていく兼業・専業農家にとって死活問題である。農林水産省は、大規模農家をめざす農

家や企業に農地を貸し出す農地中間管理機構をもって、農家の大規模化で国内農業の生産効率を高め、輸入農産物に対する競争力を向上させる狙いに期待を持たせている。しかし集約目標には大きく及んでいない。中間農家に対する安定策は、

**答** (成田町長) 稲作農家は、非常に厳しい状況にあると認識している。このため平成27年度は新たに大豆生産組合加入促進補助金、省力化・低コスト化機械購入費補助金、農業経営法人化等支援補助金、転作物物視察調査費など、足腰の強い水田農業確立のための取り組みを行う。

### 米の直接支払い交付金の減額について

**問** 米の直接支払い交付金の減額により、今までになく水田農家は苦境にたたされていく。3月定例会で館岡町長にも一般質



問でこの件について問うたが、廃止までの3年間、町がかわって支給できないか。

**答** (成田町長) 明快な答弁はできないが、私なりにこれから考えたい。

### 人口減少対策は

**問** もつと抜本的に提示した具体的な対策の考えは。

**答** (成田町長) 歯止め策の特効薬はないが、克服に向けて、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、取り組んでいく。

### 人口減少対策として子育て支援

**問** や定住対策なども大変重要なことであるが、やはり雇用の場をつくるのが最重要課題であるかと私は考えるが、町長の考えは。

**答** (成田町長) これまでのように企業を誘致することは簡単ではないので、例えば商工連携の農業の6次産業化を進めながら雇用機会を拡大したい。

### 地方創生関係について

**問** 当町小中学校の児童生徒数も例外なく減少傾向が続いている。そして中学校校舎の老朽化が進み、加えて耐震強度問題である。将来的に小中一貫校が検討されており、教育環境整備をどのように考えるか。板柳町は、現在就学前子ども医療費は無料化されているが継続的なものか。

**答** (成田町長) 児童生徒数も視野に入れているのか、そして財源はどうなのか。板柳町においても今後発行されるプレミアム商品券、換金手数料問題が新聞紙上で取りざたされていたが、当町商工会で換金手数料は認識されているのか。

### 教育環境の整備

**答** (成田町長) 板柳中学校校舎耐震化については、11月頃に校舎の体力度調査結果を待って、今後の方針を考える。また、管内4小学校のあり方も少子化などを考え、中学校との連携も視野に入れ考えたい。

小学生までの医療費無料化は、どのようなやり方が最も効果的か今後検討したい。また現在の就学前までの無料化は財源の確保に努め、継続する方向で進めたい。プレミアム商品券の換金手数料は、板柳町商工会へ確認したところ換金に際しての手数料は発生しないとのことである。



三戸 玲子

### 町政への抱負は

**問** 板柳町のかじ取り役となり2ヶ月目に入ったが、成田町長の町政への抱負を伺いたい。

**答** (成田町長) 1つは、人口減少対策である。安心して子育てできる環境づくりや若者世代の定住対策を積極的に行いたい。2つは、農業と商工業の振興対策である。

**問** 町長選挙のマニフェストに、よりよい医療とサービスができるように、自治体病院の広域化、再編の推進が記載されている。私が感じるには、広域化、再編成は進んでいないように思えるが、現在の状況は。

**答** (成田町長) 今後、自治体病院機能再編推進協議会

町基幹産業の農業を守り、商工業を活性化させるため、その対策をしっかりと講じたい。3つは、町民の健康づくりである。健康づくりには時間を要するが、町民の健康と命を守る仕組みを整えたい。4つは、高齢者福祉の充実である。介護や保険、医療、福祉が連携したさまざまな活動を展開するとともに、高齢者活動を支援したい。5つは、次世代を担う人づくりである。教育環境の整備と国際性豊かな人材育成に取り組みたい。

**自治体病院の再編について**

**問** 3月定例会の一般質問で館岡町長が中央病院のバスをコミュニティバスのように使えるよう検討すると答弁したが、どのようにになったのか。

**答** (成田町長) 検討をさらに進めているところである。



**問** 小阿弥・沿川地区の高齢者の方々への対策は。

**答** (成田町長) 交通手段を確保することで解消されるのか、宅配サービスなど消費者と販売者をつなぐように結びつけることが可能なか、地域の状況等の把握に努め、今後検討したい。

で青森県が策定する地域医療構想が示された段階で速やかに再編成に向けての協議が図られることとなる。

**問** 買ひ物弱者対策は

**空き家対策特別措置法について**



**問** 私の調べでは青森県の空き家率は13・8%、板柳町では11・7%である。5月26日に法律が全部施行され、町では防災や治安の問題で懸念される空き家の所有者に撤去や修繕を命ずることができるようになったが、今後の対応は。

**答** (成田町長) 今後板柳町では、法律に基づいて慎重に対応する。

**問** 空き家の戸数、そして対策はどのようにするのか。

**答** (成田町長) 空き家の個数は平成25年度の調査では620戸である。危険な空き家に対しては適切に対応したい。

**人口減少対策は**

**問** 我が国の人口減少に向けた対応は待ったなしの状況にあると言われている。今後の人口推計として民間の有識者で構成する日本創成会議、人口減少問題検討分科会の試算によると2010年から30年間に20代から30代女性が大幅に減少する全国の自治体を消滅可能都市と位置づけしており、青森県40市町村のうち実に35市町村が消滅可能都市とされる推計である。板柳町では、平成23年4月に第5次板柳町長期振興計画を策定し、これに基づき各年度人口減少対策として各施策を実施してきたが、この3年間で約450人ほど人口が減少している。今までの対応が必要と考えることから平成27年度予算の中で人口減少克服に向けた施策は。

**答** (成田町長) 第2子、第3子の出生をお祝いする子宝祝金事業、乳幼児医療給付や予防接種を含む

は待ったなしの状況にあると言われている。今後の人口推計として民間の有識者で構成する日本創成会議、人口減少問題検討分科会の試算によると2010年から30年間に20代から30代女性が大幅に減少する全国の自治体を消滅可能都市と位置づけしており、青森県40市町村のうち実に35市町村が消滅可能都市とされる推計である。板柳町では、平成23年4月に第5次板柳町長期振興計画を策定し、これに基づき各年度人口減少対策として各施策を実施してきたが、この3年間で約450人ほど人口が減少している。今までの対応が必要と考えることから平成27年度予算の中で人口減少克服に向けた施策は。

む予防一般事業、自殺予防のための自殺対策緊急強化事業などがある。

**問** 子育て世帯の町外への流出に歯止めをかけるに、共働き世帯が住みよい町、特に近隣町村と比較して保育料の安い町をめざしてはどうか、保育料の見直しの見解は。

**答** (成田町長) 早急な対応は難しい。大変重要な課題であるため、今後も知恵を絞って必要とする施策に取り組んで行かなければならない。



**水田農業の振興について**



**問** 平成26年度産米価の下落幅は想定外の大きさを稲作農家は失望感をいだいている。人口減少が進み食生活も多様化する中で米の消費は激減、産地間競争はさらに厳しくなっている。この状況では稲作農家は生き残れないと思っている。水田農業を守るためどのように取り組んでいくのか。

**答** (成田町長) 平成27年度は、収入減少影響緩和対策加入費補助金を実施している。今後の対策は、大規模化を念頭に省力化、低コスト化を図ることも重要でさらには収益性の高い転作物への取り組みも必要である。さらに検討する事業があれば前向きに検討したい。



今 浩一

今後の取り組みは

**問** 1点目は、老朽化が進む板柳町の公共施設についてである。大小含め数多くあり、広く町民に利用されているものばかりである。現在、小中一貫教育も検討されている中で、施設整備をどのようにするのか。2点目は、現在行われている「りんご灯まつり」をはじめとする各行事は、成田町政になった今、これまでと同じように進めるのか、それとも新しい方向を模索するのか。3点目は、前町政が策定した第5次の板柳町長期振興計画「りんごの里プラン2020」は、板柳の町・人・産業・環境など、さまざまな分野が網羅されている計画であるが、この計画をどのように考えているのか。

4点目は、町長が新しい部署として考えている仮称「健康づくり推進課」は、選挙の公約のとおり設置するのか。また、設置するとしてたから人員構成などはどうなるのか。

**答** (成田町長) 1点目の板柳町の公共施設は、徹底した管理や補修等により、できるだけ長く維持していくことを基本に、更新等の必要のあるものは中長期的な財政状況を踏まえ整備を考える。2点目の「りんご灯まつり」をはじめとする各種行事は、まつりの趣旨を再確認し、内容を充実させ、マンネリ化等にならないよう官民一体となつて取り組みたい。3点目の「りんごの里プラン2020」はさまざまな分野において日本一を目指していくことによりはならないので、基本的には引き続きこの計画を目標にまちづくりを進めたい。4点目の仮称「健康づくり推進課」の新設は、設置に向けて取り組みたい。詳細については今後検討を加えたい。

公共施設の整備計画は

**問**

老朽化が進む役場庁舎や消防署、公民館などの整備は、町にとって大きな懸案事項であるものと考えられる。これらを具体的にどのように整備していくのか。

**答** (成田町長)

今、具体的にどの建物をいつから整備するとは明言できないが、まずは公共施設の現状を把握して、町の財政状況をにらみながら整備していくものだと考えている。

りんご灯まつりの今後は

**問**

りんご灯まつりのメインである山笠運行の参加団体が減少している。今後このまつりをどのように発展させるのか。



**答** (成田町長)

まつり観覧者がりんご灯まつりをはじめた頃に比べると大分少なくなっているので、ひと工夫加えて、もう少し内容を高めたい。



葛西 幸男

「健康づくり宣言」について

**問**

青森県では、マスメディアを通して盛んに短命県返上をPRして健康づくり行政に力を入れている。新聞の記事に青森県内40市町村の健康づくり宣言の状況が掲載されていたが板柳町は宣言していないとなつている。板柳町も健康づくり事業を盛んに実施しているが、この健康づくり宣言をすることで町民の健康意識が高まり、町ぐるみで健康づくりに取り組む機運が高まると思うので宣言を考えてはどうか。

**答** (成田町長)

平成28年度の健康増進事業等との調整を図りながら実施に向けて検討したい。

保育料の無料化、医療費助成の拡充を

**問**

日本も欧米諸国と同様に、人口減少の道を歩むことになると思うが、ヨーロッパ先進国では、出生率が下がりがりだした時に、どの国も大きく対策を講じている。日本では保育料が高く、若い夫婦の所得は低く、日曜日に休める父親は5割を切り、子どもを育てる体制は非常に厳しい状況にある。若い世代が安心して子どもを産み、働きながら子育て出来るようにするため保育料の無料化や小学生までの医療費助成をさらに中学生までとといった大胆な施策、助成の拡充を考えてはどうか。

**答** (成田町長)

保育料の無料化

**問**

融雪溝及び消流雪溝について

既に整備済みの町内会は冬期間快適であると思つている。今までの融雪溝及び消流雪溝の整備状況と今後の整備計画は。

**答** (成田町長)

整備状況は、大町、東雲町、栄町、仲町、実町、田中錦町、博労町、表町、川端町、大蔵町、常盤町、広栄町、三千石の13町内合わせて合計約2万メートルである。今後の整備計画は、融雪溝等のない地域は具体的な計画はないが、冬期間の除雪体制や財政状況を考慮しながら今後検討したい。

# 一般質問

**問** 若年者就農者、Jターン、Jターンの支援策は、りんごの里板柳の基幹産業である農業をさらに推進するに当たり、若年者の就農支援や非農業者の就農振興が不可欠であると考えます。板柳町として、これまで国や県とともに、独自の施策を実施してきた背景があると思う。現に平成24年度より実施された青年就農給付金制度は、青森県では平成23年度の1990人から平成24年度は267人に増加している。板柳町では、まるかじり塾や今年度からの親元就農給付金など、若年者新規就農者への支援が実施されている。それを踏まえさらなる支援策を考えているのか。次に、Jターン、Jターンの新規



成田 陽光

若年者就農者、Jターン、Jターンの支援策は

**答** 国の青年就農給付金、青年等就農資金あるいは町単独事業の住宅賃貸借料補助金、研修費補助金、りんごまるかじり塾などを実施して支援を行っている。平成27年度からは、平成26年度繰り越し事業として新規親元就農者独立就農促進事業にも取り組むこととしている。若手就農者への支援は、人口減少問題への対応にもつながるのでより効果のある支援策を検討し事業展開したい。

## 情報提供を

**問** Jターン、Jターンの支援事業はもとより、板柳町に来て就農を希望する方々への住まいや農地などの情報をこまめに紹介するソフト面の整備も不可欠と考えます。(成田町長)

**答** 情報提供は大事なことであり、これに努めて行きたい。

**問** Jターンとは、地方で生まれ育った人が都心で一度勤務を経験した後、再び自分の生まれ育った故郷に戻って働くこと。Uターンとは、Uターンとは、都心から地方に拠点を移すこと。Jターンとは、自分と異なる地方に生まれ育った者が、別の地方に移住して働くこと。Iターンとは、生まれ育った場所以外で住んだり働いたりすること。

## 新規・親元就農について

# 議会を傍聴しませんか

次の定例会は9月です。

<議会日程のお知らせ(予定)>

月 日	内 容	
9月 2日(水)	本会議	委員会報告、提案理由の説明・報告、監査報告、決算特別委員会の設置
9月 7日(月)	本会議	一般質問
9月 8日(火)	常任委員会	総務産業厚生・福祉建設文教
9月 9日(水)	特別委員会	決算特別委員会
9月10日(木)	特別委員会	決算特別委員会
9月11日(金)	本会議	委員長報告、質疑・討論・採決

※開催時間はいずれも午前10時です。



※6月定例会(一般質問)に、板柳地区更生保護女性会の9名のみなさんほか、多数の町民の方が傍聴しました。

**答** (石澤経済課長) 今年度から新規でやる新規就農者と親元就農では、農地の件や機械の関係で非常に差があり、新規でやる方と同等のリスクを負わなければならぬことから要件で断念している状況にある。このことから、今回地方創生の予算を活用し、2年間ではあるが板柳町単独で親元就農者へ給付するため、平成27年度から予算化している。このことは定住促進にもつながると思っております。

## 議会委員会等組織一覧

### ■常任委員会

総務産業厚生 常 任 委 員 会	◎長内良蔵 ○安田久五郎 安田弘、北畠弘美、三戸玲子、成田肇
福祉建設文教 常 任 委 員 会	◎佐藤洋治 ○今浩一 田中達男、葛西清人、葛西幸男、成田陽光

### ■議会運営委員会

◎葛西清人 ○田中達男 北畠弘美、佐藤洋治、長内良蔵

### ■議会だより編集特別委員会

◎葛西清人 ○今浩一 三戸玲子、長内良蔵、成田陽光

### ■議会基本条例制定調査特別委員会

◎成田肇 ○佐藤洋治 議長を除く全議員

※◎は委員長、○は副委員長 (平成27年6月1日現在)

# 一目でわかる審議結果 第14回定例会・第6回臨時会

◆第14回定例会	議案	結果
・専決処分の承認（承認第1号～第4号）		全員承認
・青森県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体数の減少及び青森県市町村職員退職手当組合同約の変更		全員可決
・青森県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体数の減少及び青森県市町村総合事務組合同約の変更		全員可決
・平成27年度補正予算（板柳町一般会計ほか2件）		全員可決
【報告】平成26年度板柳町一般会計繰越明許費繰越計算書		
【報告】平成26年度板柳町一般会計事故繰越し繰越計算書		
【報告】平成26年度板柳町一般会計継続費精算報告書		
◆第6回臨時会	議案	結果
・板柳町副町長の選任につき同意を求めること（新任：村上孝夫氏）		全員同意
・板柳町教育委員会教育長の任命につき同意を求めること（新任：木村研二氏）		全員同意

## □ 議会の動き（4月～6月）

開催日	会議等名	出席議員
【4月】		
4月 8日	町例月検査（監査）	安田(久)議員
4月15日	町議会だより編集特別委員会	葛西委員長、委員
4月16日	議会運営委員会（5・6月会議等）	北島委員長、委員
4月17日	国民健康保険運営協議会（辞令交付・協議会）	議員
4月20日	町議会だより編集特別委員会	葛西委員長、委員
4月28日	議員全員協議会（町諸案件等）	安田議長、議員
【5月】		
5月 8日	議会運営委員会	北島委員長、委員
5月11日	町例月検査（監査）	安田(久)議員
5月22日	福祉建設文教常任委員会（管内小中学校訪問）	佐藤委員長、委員
5月25日	議会運営委員会	葛西委員長、委員
〃	議員全員協議会（町諸案件等）	安田議長、議員
5月26～27日	全国議長・副議長研修会	安田議長、成田副議長
5月29日	議会運営委員会（定例会案件）	葛西委員長、委員
【6月】		
6月 3日	議会基本条例制定調査特別委員会	成田委員長、委員
〃	総務産業厚生常任委員会（放任園現地視察）	長内委員長、委員
6月 5日	本会議（定例会日程、町長の提案理由等）	安田議長、議員
〃	議員全員協議会（町諸案件等）	安田議長、議員
6月 8日	町例月検査（監査）	安田(久)議員
6月10日	本会議（一般質問・6人）	安田議長、議員
6月11日	総務産業厚生常任委員会（所管事務調査）	長内委員長、委員
〃	福祉建設文教常任委員会（所管事務調査・保育所訪問）	佐藤委員長、委員
6月12日	本会議（諸般の報告、採決、閉会）	安田議長、議員
6月15日	議会運営委員会（臨時会案件）	葛西委員長、委員
〃	議員全員協議会（町諸案件等）	安田議長、議員
6月18日	臨時会	安田議長、議員
6月19日	県町村議会議長会臨時総会	安田議長
6月24日	西北津軽郡町議会議長会定期総会	安田議長

# 査 審 会 員 委 任 常

## 総務産業厚生

### 議案審議の主なもの

#### ■まち・ひと・しごと創生総合戦略

Q まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について。

A 町では9月策定を目標に現在作業中。町民の考えを知りたいため、20歳以上の町民千人に郵送でアンケート調査を実施。町ホームページからインターネットでもアンケートに参加出来る。今後は町内各種団体の方に集まってもらい、ワークショップ形式で意見交換会を行う。また板柳高校の3年生にもアンケート調査で意見を聞くこととしている。

#### ■多面的機能支払推進交付金

Q 多面的機能支払交付金の制度概要と我が町の状況について。

A 農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活

動に係る支援を行うもの。「農地維持支払交付金（農地法面の草刈、水路の泥上げ、農村の構造変化に対応した体制の拡充等）」と「資源向上支払交付金（水路・農道・ため池の軽微な補修、植栽による景観維持、施設の長寿命化のための活動等）」の2つがある。

今年度、三千石地区、掛落林小幡地区、牡丹森地区の3地区が実施。1年目は、農道及び畦畔の草刈りや、敷き砂利による軽微な環境整備といった事業を行うこととしている。

### 陳情

総務産業厚生常任委員会に付託された陳情について、審議の結果は次のとおりです。

・労働基準法及び労働者派遣法の「改正」に反対する意見書採択の陳情

継続審査

・「安全保障関連法案」の廃案を求める意見書採択の陳情

継続審査

・TPP交渉に関する陳情

継続審査

・米価暴落対策の意見書を求める陳情

継続審査

## 福祉建設文教

### 議案審議の主なもの

#### ■プレミアム商品券購入助成事業

Q プレミアム商品券購入助成事業の概要について。

A 低所得高齢者や障害者のいる世帯、ひとり親世帯、多子世帯、子育て世帯を対象に、プレミアム商品券購入の助成を行う。

Q 助成方法は。

A 対象世帯に割引券を交付（郵送）する。

Q 商工会で発行するプレミアム商品券は、毎年入気で短期間で完売している状況である。割引券交付世帯等が優先的に購入できるようにはできないか。

A 販売方法等については、現在商工会、経済課と協議中である。割引券交付世帯に1日前倒しで販売するような形で検討している。

#### ■板柳中学校耐力調査業務委託料

Q 耐力調査の結果が出るのはいつ頃か。

A 2月に委託契約をし、3月雪解けと同時に調査を行っており、8～9月で現地調査は終了。その後2ヶ月位、県の内容聴取を行い、追加調査等がなければ11月末までには正式な結果が出ることになる。結果が出たら、議員の皆様へ報告する。

各常任委員会から、要望意見が町へ提出されました。

#### ●総務産業厚生常任委員会要望意見

地方を元気にし、人口減少を克服するために、地域間の交流促進と連携強化を図る基盤として、安全・安心な道路ネットワーク機能が重要な課

題であります。

すでに供用している、東北縦貫自動車道、浪岡インターに接続している「津軽自動車道」への板柳町方面からのアクセスは、十分整備されておりません。

当町方面からの、「津軽自動車道」へのインターチェンジ設置については、その可能性を調査されるよう要望いたします。

#### ●福祉建設文教常任委員会要望意見

融雪溝や消流雪溝のない地域は、冬期間、道路脇に積み上げられた雪によって、交通阻害や歩行者の安全確保の困難など、町民生活に大きな支障をきたしております。

また、高齢化社会を迎え、除排雪作業の負担が大きく、生活環境の悪化が課題となっておりま

す。冬期間の、安全で暮らしやすい生活環境を確保するため、「融雪溝及び消流雪溝」を計画的に整備されるよう要望いたします。

# 視察・研修レポート

## 福祉建設文教常任委員会

管内小中学校・町内保育所等施設訪問

平成27年5月22日（金）に管内小中学校5校の訪問を行いました。

各学校では、校長先生より学校経営方針の説明の後、教頭先生や教務主任の先生から、学力向上プランや児童・生徒指導全体計画、全国学力・学習状況調査の概況などについて説明を受けた後、校内を視察し、最後に町への要望等を校長先生を交えて話し合いを行いました。

常任委員会所属議員が直接、子どもたちが日々勉強に励んでいる学校を訪問することで少しでも多く現状を把握したい願いで実施しております。これからも教育の町「いたやなぎ」をめざす我が町の学校環境に貢献して行きたいと思っております。

また、平成27年6月11日（木）初めて、管内6つの民間保育所「鶴住」の訪問を行いました。

我が町でも「認定こども園」の問題が取り上げられる中で、経営側をはじめ関係職員との意見交換の場ともなり、直接現場の声が聞け、大いに実のある訪問となりました。

そのほか、就労継続支援センター「あいゆう工房」を訪問し、関係者の方々から施設の概要説明を受けました。



学校訪問



保育所訪問

このたびの、学校訪問は、町の将来を担う児童生徒の様子を間近でうかがうことができました。これに加え、町教育委員会、学校、議会が一体となって教育について話し合いができたことは大変に有意義なことでありました。

また、保育所の視察訪問は、27年4月から本格施行された「認定こども園」、子ども子育て支援新制度を知る上で保育現場を訪れたことは貴重なことでありました。

（議員 今 浩二）

## 全国町村議会

### 議長・副議長研修会

5月26日、27日の2日間、東京中野サンプラザホールにおいて開催された、平成27年度町村議会議長・副議長研修会に参加しました。初日は内貴滋氏（帝京大学経済学部地域経済学科教授）の基調講演「分権時代における地方議会の役割」や「これからの町村議会を考える」と題したシンポジウム、2日目は白石真澄氏（関西大学創造学部教授）、青山彰久氏（読売新聞東京本社編集委員）の講義を受け、大変有意義な研修でありました。

（安田弘議長・成田肇副議長）



## 小中一貫教育実践校視察研修

新潟県三条市・宮城県登米市

7月6日から、2泊3日の日程で、議員11名と、木村教育長、田中事務課長補佐、小松原議会事務局長の14名で、新潟県三条市の三条市立第一中学校・嵐南小学校と宮城県登米市立豊里小中学校の2校の小中一貫教育施設を視察訪問しました。

いずれの小中一貫教育施設は、すばらしい校舎で、教育カリキュラムも独自のなもので、今後の小中一貫教育施設として、先進的なものと感じました。

三条市の小中一貫基本方針は、学習指導要領に基づき、9年間連続した教育課程を取り入れており、前期4年間は基礎充実期として、繰り返し指導や補充指

導を実施。中期3年間は活用期として、一部教科担任制の実施及び小中教員の交換授業を実施。後期2年間は発展期としてキャリア学習や発展学習として、小中一貫教育カリキュラムを作成。小1年生から中学3年生を、1年生から9年生として同じ敷地内で共に学校生活を送ります。

かたや登米市の小中一貫教育は、学力の低下や生徒指導の問題を新たな教育システムを導入することで課題の解決を図ることから、教育課程は6・3制から3・4・2制に移行。低学年部は1年生から3年生、中学年部は4年生から中学1年生（7年生）とし、英語教育を4年生

から取り入れ、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4領域のバランスを考え、発信・受信できる英語を身につけさせることを狙いとしていました。高学年部は8年生から9年生として、校舎を増築して一体型小中一貫教育としていました。



登米市立豊里小中学校

両校の特徴として、「小1プロブレム」「中一ギャップ」の緩和を狙いとしているところが注目されます。

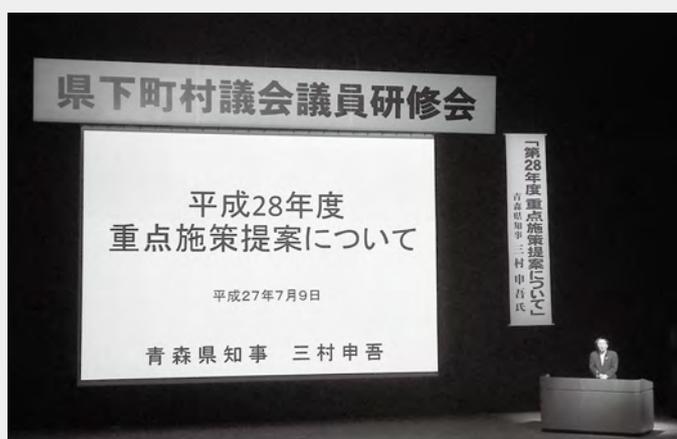
当町の小中一貫教育の狙いは、児童生徒の減少に合わせて、中学校の老朽化耐震問題からの発想による、小中一貫教育施設問題であり、慎重なる議論が必要なものと思われる。

(議員 葛西 清人)

## 県下町村議会 議員研修会

7月9日、青森市民ホールにおいて、開催された県下町村議会議員研修会に、議員9名が参加しました。青森県知事、三村申吾氏を講師に招き「平成28年度重点施策提案について」と題し講演を行いました。全19施策の内容で、中でも大幅な米価下落に伴う水田農業再構築に、全力で取り組んでいくという知事の力強い言葉を聞くことができ、「元気の青森県」が期待できる内容でありました。

(議員 長内 良威)



## 編集後記

成田誠町政がスタートして、議会により多くの町民の皆さまにお越し頂けるように開かれた親しみやすい議会になりますよう、議会だよりの充実に努めてまいります。

町政のトップが代わり、人口減少や地方創生など諸問題を抱える中の船出ですが、明るい板柳の未来に期待を寄せつつ、緊張感を持って議会に臨みました。皆様も是非、議会を見学にお越しください。成田新町長をはじめ、おらほの議員を叱咤激励する気持ちで！

この度、編集委員の大役を拝命しました成田陽光でした。

（委員 成田 陽光）

### 【発行責任者】

議長 安田 弘

※第7号発行予定は11月13日頃です。

議会だよりへのご意見・ご感想をお聞かせください。